休窓閑詠集巻

利用の鈴木蔵書

倣漢樂府詠集卷上

春

立春

春夜

暮春

早春

子日付若菜

三月三日絲花

春興

三月盡

同三月

寫
梅 付黴
躑躅
夏
更衣
首夏
藤
雨
花 付落花
霞
柳
欸冬
夏夜
晩夏
郭公
扇
蟬
蓮
花橘
螢
端午
納涼
秋
立秋
早秋
七夕

秋興　杜甫
八月十五夜　附月
九月九日　附菊
女郎花　萩
槿　蒹葭
鷹　附歸鴈　虫
露　霧
冬　初冬
冬夜　歲暮
爐火　霜
氷　附春氷　霰
雪
積衣
佛名

春

立春

逐吹潛開不待芳菲之候迎春不
愛將希雨露之恩
池凍未須風度解寒梅北面雪封寒
柳無氣力漸生之勢池有波文水生開

今日不知誰計會春風春水一時来
夜何殘更寒磬晝春生香少院燈燃
ものうにもたきこめ
ふるやいえんとも
神ひらくむすめこうまれ
はつこふの風やと
もふをつ小いふ
やまをかすみくけ
早春

氷消田地鴈雁来林眼仁
先遣和風報消息緩来中
東岸西岸之柳遠不同南枝
小枝之梅開落已異
黙塵嫩蕊人奉手碧空雲霞脱衣
氣靄風拍新柳騒乙消沈霞芸騒

遊壇氣色晴海緑林裏宮輝宿雪紅
いそはくくそうろんのつとさわらひせん
りもてついつるまふうにくるれ
やうせうかくぬくとうらいつるなやけるのうち
忍わさをなひのよゆきこさるく
われつもるくかたにもり

春興

花下忘帰因美景杯勿動酔芳春風

野草芳花紅錦地遊絲繚乱碧維天
歌酒家々花盛処鶯声陽春
山桃漫野桃日曝紅錦之惱門柳漫
岸柳風宛麹塵之絲
著野屋數紅錦緒岡之遊織若雞殘
林中花雨河開落天外遊絲或有無

筆歌枕月數こゑ思
こゝろのおもむき
こゝろのうつりて
けるさま
こゝろもなく
きろみそきく

春夜

狩獵茸燒深枕月踏雪圍猶少年春
けるよやこはあるじ
よろこゝろみそ

子日 付若菜

倚杉樹〻摩腰習風霜之雅也
和菜羹而啜口期氣味之克調也
伽杜根而摩腰多年之壽添也
梅花而挿頭二月之雪落衣
袖のひさる野邊かこまれぶりせ
ちよまたをひま

中納言家持

春の野にすみれつむとこしわれぞ野をなつかしみ一夜ねにける

若菜

野中の若菜も人の摘みしかばいまだ生ひずと人ぞ知るらむ

俗人屬と義指

あすよりはわれもやみなむ白雪のふりてつもれる年のをはりに

三月三日 讨桃花

春来ぬと人はいへどもうぐひすの鳴かぬ里は聞けどかひなし

ゆきてみむ人もあらなむ山ざくら我のみ見つつ春をこすべく

春来ぬと人はいへども桃花不語仙源何處尋

春の暮月々之三朝天酔平記桃

李盛也我后一日之澤可機之餘曲水

雖遠遺麈雖絶書巳字而知地勢
思魏文以駈風流之志之所
秋小序云尒
輝霞遠近應同桃李淺深似勧盃
水成巳字初三白源起周年後幾霜
磯石遲来心寫禱字添過過去之庭

夜雨偷温蕾波之眼新嫣暁風
不言之以生之候
こもせりなるそ
るそはるまめいまなる

暮春

掛水柳花之万路
征翅沙鴎潮落晴
紅陽橋望古西之聲
乱絲野馬芳溪春

人妻更衣時須惜年
劇白髪知今日好
以手つゝみて
はかみく終すまそ
すきま

三月廿日

筆ことふを
然風
筆

人妻
京

行従来清和
順性善論筆
筆ふ用動毎
筆史記老子
筆ふ用一要塚岡
ゝとけるを
ゝやさ

同三月

今年国在春三月剃髪金陵一月余
蹄鉢欽篤更逕面於弘雲法師
林葬蝶堂翻翻お一月ゝ余

花梅咽根垂堂梅多朝入谷ゝ迄動
ゝゝけふもゐくゝゝふも
人のこゝろよあゝやうめ

鶯

鶏既鳴悪往詩旦寛未出遺濱去谷
誰家碧樹篤嚶第三羅堂第形垂
幾重又幕重堂幕重覚ら時施未去

明春山當時出
春以有酒當時
當拜後引来
感同新於相
舍美當同
遊姫之神
之春頼動願同
新路必今
梅月夜花同出
あたまのそ
まるるもみ
あるみりけ
けつこもまる
うるひものう
山そいそけ

霞之曙後殿杉木
鎖沙茅ふ三分許隔樹霧孫竹院
かすめるやうにけうとくたてり
ようのものゆきはちりて
あるじいさすゝむしまきて
けものゝすみはをふかく

戒香花下潛增墨雲子之悲對窗驚
雨暗動潘郎之恨
長樂鐘聲花外遠
養濟院前為花又安
花新開日初陽洞鳥老歸時落暮陰

斜脚暖風先扇雪
日未晴半月
ふくらむあめはれ
めうとも花のうけ
ありやさえ
いとりてぬけたまそ

梅 付紅梅

白行落梅浮洞水黄
梅花帯雪驕現今
柳条和煙入酒中

漸薫臘雪新封裏
青緑縁出陶門柳
又嶺着雪法衆倶
誰言春色淺東
いみとねてう
ひとのむめはまたつ
まらせてうこんとりのしむめの花
うたもみをゆきのふる

かをとめくさもしものも
あやつりかすみうちはし

紅梅

梅含露古苑紅氣江東珍重帝城
淺初鮮娟仙方雪姿色濃香芳
郁妓燈之衣儀董
有色易分殘雪底安知雜夕陽中

仙紅風生雪數雪野燈火暖未揚燈
ふまでそうそうそうそうそうそう
いろもうそうそうそうそうそうそう
えそうそうそうそうそうそうそう
つまでもうそうそうそうそうそう

柳

林堂行處吟筆相場和漢曙鶯
漸欲拂絶詩馬客未
庭淳上橋人

宴廟也初秋夫村松翠公眉
微雨花雪風情如夢見此筆無句
大庾嶺之梅早
之杏未開豈趁紅
雲登紅統扶東白香姻黃李嫩柳風
鶯宅近晴庭月暗陸池邊日永煙深

深谷月注文枝桂岩風兼澗菊籬
めやきのてもとかけりおそ
みそれくれ花をはうかかけるひな
けるれをそうやふまいもの
まうこうまるかけるか
ゆまゆまれまゆまいまれも
まのくふをふ

花

花明上苑輕汗馳九陌之塵物川色

山斜月莹子歌之詠
池色湾之盖深水
遙見人家花便入不論貴賤与親疎
莹日莹風高任多顯万彩之玉
深枝淡泊素一入再入之和
誰謂水無心濃艷艷波意色
誰謂花不語狂濃激動彩動唇
欲謂之水則潼女飛彩之統治員
欲謂之電之蜀人潼文之鈴奪耀
織自何絲唯當南義無元指往毛風
花花如錦幾濃粧殘春風未息君
始識春風機上巧非唯織女義等

眼貧富郡哉幾千年侯奏職閑
の井にてうたひける
ようやものなるこそうれしさ
ちりもむかしをしたふ
みくのやへうつ
てこたえていふをそ

落花

落花不語空多樹法の雨いく日入池

朝踏落花相伴出暮随花多一時帰

春花雨々閨人酣朝暢々送暁鶯

豫泰譲通り庭

落花猶籍風狂しる庭

誰閨風翻漫揺舞下揺連妙形階斷

水のもれとゝのふやをいこふあるじ
もてなしうあるさまめやする

躑躅

暁薬尚開紅躑躅秋房初孕白芙蓉
来遊人欲多食歟抱蕊打算
おもいいつるやまよいつし
いそねつゝあまこひものを

款冬

點着唯黄犬有之款冬誤鏡當春風
書之者未相叶拾芥抄紙也文未詳
吹風もなくかんなきの花
いまもそんこゝろ
まやとのやへやまふきにふく
ちるのこゝなむもゝのこゝみを

藤

振望恩三月惠堂藤花落南開之

蠟燭霧夜秋茶

たのしさよ

ゐてゆんもゝ

ときこゆるかよ

かれるものゝ

夏

更衣

背屏燈殘宿醒開茗茶陽羊香

生衣欲待家人着

ものゝ

ふりへさりも

首夏

甕頭竹葉經香歇階庭萬蘂含開

若生石面苔衣綠出池心小萬緑

わかやけるをみてうれし

なつきぬるかな

夏歌

風吹て木晴天雨月照平沙夏歌雲

風をいかに夏の月照れる沙よりし

雲歌言雨雲底ふ夏の月照れる

もつのをよめよ

人をまよやまはさりけせ

りまますなやうつるの水かも

ううしめきたかつを

なつのよれをかも

まくひふうまをりまして

端午

有時高戸先生舞言坂園往師約

わうこゆをうまあひや絶くさ

おひをうやまくさ

きのふまそうふ

ふまやのつまを

紙漉

青苔地上消殘雨綠樹陰中過晩涼
窓籠清風纔入夢定教流水不知閑
不是禪房無俗慮祖師心靜思方涼
猩猩好伴園雪友扇代琴風亦美
忘憂昭君招漢珠宮淚明月空流
別見新篇添水障幾人古集細添詩

池塘水面三伏夏松高風送一聲蟬
もそよやとくるもうつ
めつるをさうるとしうるもの
きてこゝろれうつり
むまふいつゝのてはら
まつりのいさ井れて
なりなをそうとをれ

晩夏

竹亭陰合偏宜夏水檻風涼不約秋

花橘

靈橘子作山雨雲拜相契我水風涼
村歌全珍重兩度相逢
はつさまりそるものそれ
むすのそれ

蓮

風花葉雨深孫水蓉孫電寒
葉處彩艇西湖賀
姓開蓮舟清風
岩許村住通
孫四更亮

郭公

一聲山島曙雲外万點水蓼秋草中
ふつきこやこゑおちつくなるかみのいりえやうてやまひとつ
いまひとつのきあめりけり

ほとゝぎすなくやあけぬるかたをみんとしるへもなし

蓼

蓼火乱飛村近辰星早没夜初長
蓼蔭水暗蓼紅楊柳風高蘆荻秋
明く仍在雁退月光移屋上皓く
不寝堂狭雪床頭

山經奏裏許過津海賊簡中似宿添
[illegible]
風[illegible]
川[illegible]
[illegible]

蟬

遲と[illegible]香日玉[illegible]髪暁[illegible]温泉澄
蜩く[illegible]秋風山[illegible]蟬[illegible]樹[illegible]

子幸島路合梅雨不[illegible]蟬[illegible]送妻妹
島不[illegible]緑[illegible]奏[illegible]蟬[illegible]黄梁[illegible]秋
今年実例腸先[illegible]雲虫[illegible]
歳[illegible]歳来独[illegible]変[illegible]後通[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

扇

盛夏不消雪終年無盡風引秋
生手裏花自入懐中

不期秋漏初分後唯数秋風来前
あまの川かくすなきさなしつゝ
なつものせとなりぬやかまし
あふぎはあふぐせもなくて寒そして
そよそよかろうかさまのはし

きみそそうさ
なしあくもあ

秋

立秋

蘭風涼風白露雁雲鶺鴒漸敲雨秋多雖常遍晩年激
あさめりはやふみそれも
そのそそろ重ね

うらみ
ものそかさ
ものはおもひをそふるかな

早秋

但喜暑随三伏不知秋送二毛来
槐花雨洞新秋地桐葉風涼欲晩天
実景剰残衣尚重晩涼潜到簟先知
めさましてなをおもひのこすものは
ひるねのゆめなりけり

七夕

悠悠廿年長乞巧幾多
二星適逢未叙別緒依々恨
又夜将明頻驚漏漸風颯々聲
露應別淚珠空落雲是愛駕路未成
玉衣曳浪霞裙濕幾行燭影漏尽欲消

詞託數沙雁且遣心期行月欲高嫌
風送暗來聲不絕及明猶渡不禁
あるよりはるきわたるかりがねも
きこえぬうちにふきそいてふくかぜ
いとせちなりひとこえおくれしもの
あいうんあるものかなりうまきうた
よりもたにあるみちはなるりうせん
めうのすすむもしらまる

秋興

林間煖酒燔紅葉石上題詩拂綠苔
楚思眇茫雲水外高巖清脫管絃裏
大底四時心惣若統中腸斷是秋天
物色自堪傷客意宜將愁字作秋心
曲未盡思在秋天多致當時已抱事
第一傷心何處斷寒月照

蜀茶漸已淡乾味猶存
うつゝなきものおもひつゝ
なまよひとものつゝみあまりはさを
あさはなればゆめうつゝなれ
なきのうつせけさのつゆ

秋暁

相思夕上杉墓巻思蛬敲砌再秋
望遥月影新聴砧声

秋夜

秋夜長ゝ〻亜勝天不明耿〻殘
燭背壁影前後暗窗打寒雨
遥〻鐘漏初長耿〻星河欲曙天
夢裏未知身万里一声雁過楚江秋

[illegible]
[illegible]
[illegible]

碧浪金波二五初秋風計會似雪
自愛荷葉愛霜早人道盡花過雨餘
岸白遥迷杜鵑潭暮蓼深中魚
瑤池便是尋常景此夜清明玉不如
金盃一滴秋風露玉連三更冷漢雲
楊貴妃歸唐帝思李夫人生漢皇情

みかのはにて月を見てよめる
こひしくもあさのやまかつきりけり

月

誰人離外入泥成何處庭前新別離
秋水濺来船去速夜雲收盡月行遲
不酔黙中多雪濯塵園山月要君
天山不雁何年雪人合浦應迷舊日珠

欲和豊嶺鐘聲甚奈華亭鶴唳何

鄉渡數行征戍客掉秋一曲釣漁翁

あまのはらふりさけみれば

みかさやまいでしつきかも

かすみゆゑあさたちきぬと

月よみをとめしかぬらめつも

九日　紂菊

驚知社日辞巣玄菊為重陽習雨開

探故事於漢武則赤蓮擢実人之衣

尋舊詩於魏文黄花助歓祖之術

先三遍考吹其花必暁星之薄河漢

引十分考湯其彩疑秋雪之迴洛川

谷水洗花汲下流而漉上壽者二千

餘家地脉和味食日精而駐年顏者
五百箇歳
ヨクやよ
ひとりいきくふたたび
菊
霜逢老驥三分白露萄新苑一半黄
不是花中偏愛菊此花開後更無花

嵐陰欲暮斡却柘之後凋秋景早
移朔芝蘭之先馥陶家兒子不棄嫌
鄰縣村間皆洞屋骨樓雖不信有長生
蘭菀自應為俗豊
蘭蕙菀嵐權栽後逢葉凋月照霜中
ふろあてにおりつゝやゆきをつゝ
とさまはをおもひこゝろくの花

ひたくこの雲ふもうも
あるつゐ　とそありやまもくはし
九月盡
縱以靖幽爲固難
今逸貴而退何遲爽籟於風境
頭目縱隨禪客亡以秋弛与太應雅
文峯案響白駒景詞海艤舟紅葉聲

やまとうたあさもくれぬとはくるまを
まさきの葛ふきかへすをけるあるうを
名ふくゆくあさのかぜそのはつ
わりのいのちりけるをりけり

女郎花

花多かる墨繪俗吟為女郎風欲
靜情老恐悪裏翁首似霜
名をみるしなれる野をうやう
あやなくあるの名をやそうをき

をしなべてみなくさはなくて
いとむしのおさそふころ
萩
暁露庭鳴花始動百般摧折一時情
あさのつゆにはさきそめし
はぎやよそれそなをけてそなふ
うろけんこころにおもひをつゆる
あさのつゆにはさきそめし
こころよりこころにおもひをつゆる

蘭
前頭更有蘭除物若菊書蘭二面記
枝葉豈無彩平浮雲掩而勿賢郭蘭
豈不芳平秋風吹而先敗
題如漢女顔施粉滴似殿人眼注珠
曲終為楚客秋絃韻裏夢斷燕姫暁粧

桂

杜樹子年終果桂花一日自為葉
未而不曲離隱有林暑之露生而
不返桂離垂枝暮之花
[illegible]

[illegible]

[illegible]

第載

多見義花悦同儔先時豫春得開遊
自吾閑寐家僮侵春樹春栽秋草秋
閑思着汝花紅日西是當吾贖日年
雷非種露恩元真為是花時供世尊

紅葉 付落葉

不堪紅葉青苔地又是涼風暮雨天

黃纈繡林寒有葉碧瑠璃水淨無塵

洞中清淺瑠璃水庭上蘭蓀黃錦繡林

外物獨醒杜澗多餘波合力錦江殼

落葉

三秋雨之漏西長空階雨滴万里

而鄉園何在落葉意深

秋庭不掃携藤杖閑踏梧桐黄葉行
楸柳宮槐湯搖落秋悲不到貴人心
梧楸影中一聲
上數行之紅纔碎之雨空灑鸕鷀鴛鴦
推蕪徑及杖家朱實呂之衣隱逸
優遊殿踏葛稚仙之藥

隨嵐落葉含蘭露灑石飛影美雅琴
逐夜光多笑鼓月每夕聲少漢林風
あすよりはみち葉なからんつつさせ
やまのあらしをもいとひしのも
ふるさとも
みなとりのみてたちめぐるやまの
きよりも

鷹 付歸府

万里人南去三春雁北飛不知何歳
月得与汝同歸
尋陽江色湖添満数声秋聲鷹引来
雲衆山粧雨久西三行宿鴈雲秋
雪弓難避未抛却上弦之月懸
奈策易迷猶成渓おお下流之水急

鷹飛碧落書青紙隼撃霜林碧玉裝箏斜立柱青苔色紙数行書
雲衣泥絆羈中贈風櫓瀟湘浪上舟
あさみどりうつきこゆるそらたちてきえてゆくえもしらん

鴈帰

山腰歸鴈斜掌筆水面彩虹未展巾

けうそみそをそ
そふまきさそそ すそやなそへま

出

ゆく暗宮下雲そ深草寒秋天思婦
心雨夜愁人耳
霜草欲枯出患若風枝未完鳥鞍
床遍短脚蓑聲
南雁歌心亂孔

山館曉時暗野亭風霜織狂寒
鞍急愁遠風河暗聲鹿吟幽月久寒
まそとれそのめ事舞あそのそ
あそかなつもの
きそすいそよをあそのあれ
なそれおのはまそ
さはまそ

鹿

蓑若路滑僧陣寺紅葉聲鼠鹿生林

暗遠食華身冬変更随加草徳風来

みちをめとさはのやまふすもゝの

おのれあさてや秋をるゝん

ゆふいろそのやさになそれ

ものうちやあさはなるゝん

露

丁巌九月初二報似珠厚似号

露滴菜報寒玉風動杜梁雅琴清

吟のあこれをの秋つきり

たまとみるてそのーーつゆ

雪

竹窓暁籠衙頻風暁送過江春

雞鳴夕窓埋人枕雪翁猫

ちゝさめしもの

はかのやさふちかゝん

楼春

八月九月四長夜之秋乃至小斗星前横北斗星前横南斗星前横東斗星前横西斗星前横時雨又曉惣國月次載出雲並長短製各起立不苟膳國風施雨充饌神祭等月次幷年中行事次第幷四季折節雨所之題者別巻詳記焉

かくろふもうれしきよもぬしとうたふる

冬

初冬

十月江南天寒好下樓冬第一義

四時寧落二分減万物蕭疏過中調

床上春収青竹簟箇中閑出白綿衣

[illegible]

冬夜

一盃寒燈雪外夜數盃溫酎雪中春
年光自向燈前盡客思唯沒枕上生
[illegible]

歲暮

[illegible]

寒流葭月澄如鏡夕吹和霜利於
風雪易向人前蒼歲月難沒處還
[illegible]

爐火

黃醅綠酸迎冬熟爰在野馬聽無覺臘裏風光送火遠

此夫應鑽花樹取對菜終日有春情
他時張醉賞花下近日那堪獨歎息
うたゝゝゝ

雪

暁入梁王之莽
公之樓月明千里
銀河沙漲三尺梅嶺雪開一万株
雪似鵝毛花散乱人披鶴氅主仙細
或逐風不逐如振羣鶴之毛又當晴

狩猟短綴鏑鳴
翅似還群掃庭上頭為鶴生白鶴色子亦色
玉杜庭上頭為鶴生白鶴色子亦色
猴女園中秋扇色素手執琴聲

氷封水面同雪浪林頭見有花
霜妨鶯囀雲壓水孤鴈驚沙

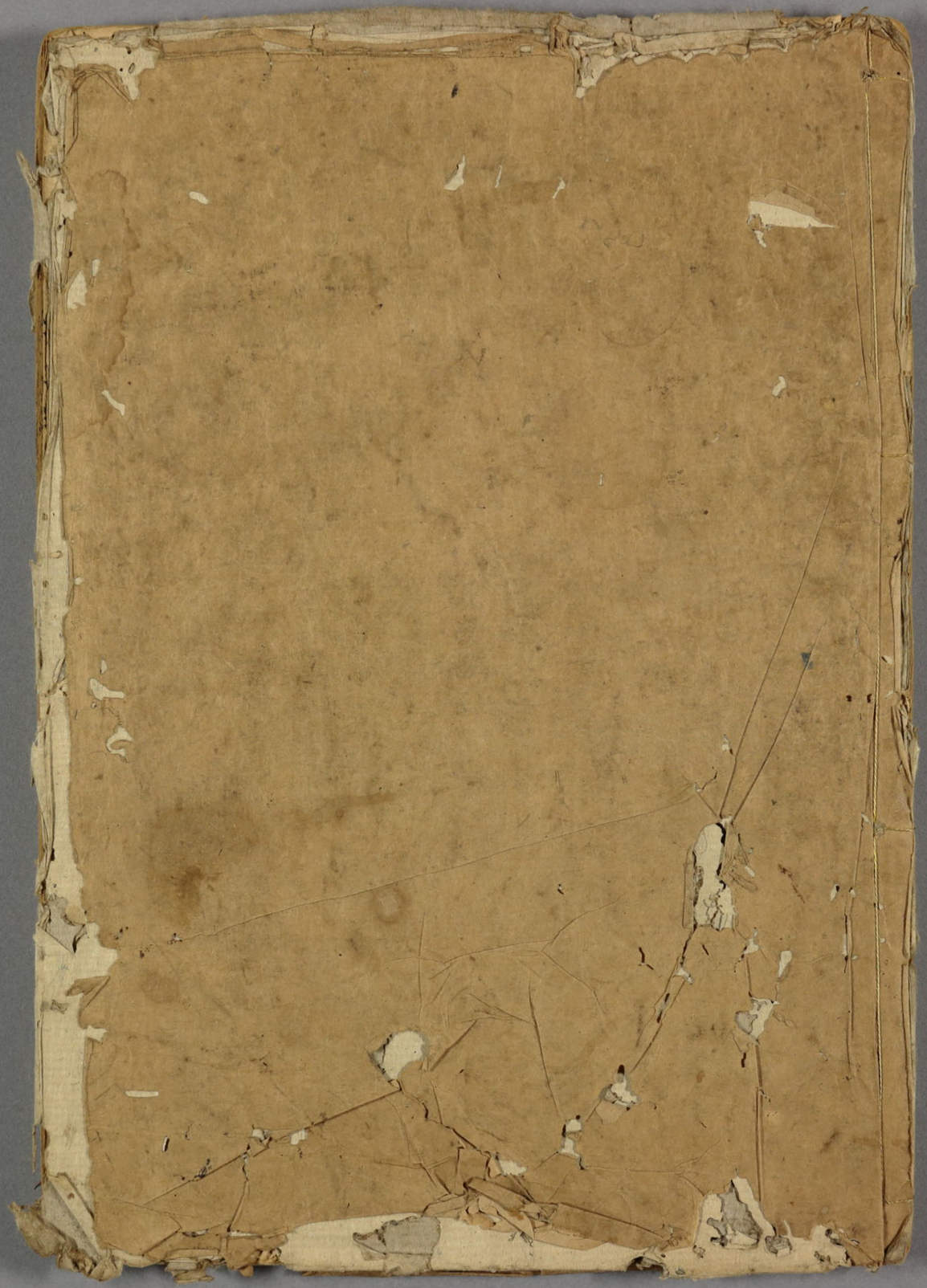
氷消見水多於池雪霽望山春
氷消漢皇窺鏡霜曉梁王不召枚
胡雲低給令使覚池亀恐失信忠
やまはのこりいろもなし
ふのこりいろもなし

霰

鷹準雪来驚聲脱龍顔珠投顆寒

佛名

香火一鑪焼一盌白頭夜礼佛名
看自禅心無閑人花開合掌不思春
あらたまのとしをはこゝろやしめん
はるをまつ人ならなくに
かすみたつ春の山ぢをこえくれて
とまるもしらぬ花のしたかな

和漢朗詠集巻上

右朗詠上一巻古今相伝贈一品大江朝綱卿
愚恵遺風忽絶而已惜哉
弟淮三后判 記之